

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 6 日現在

機関番号：32702
 研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2008～2012
 課題番号：20401013
 研究課題名（和文）ヤオ族の儀礼と儀礼文献の総合的研究

研究課題名（英文）A Synthetic Study of the Ritual and Ritual Documents of the Yao

研究代表者

廣田 律子（HIROTA RITSUKO）
 神奈川大学・経営学部・教授
 研究者番号：70260990

研究成果の概要（和文）：湖南省藍山県ヤオ族が 2008 年 11 月に実施した度戒儀礼の儀礼内容の分析と合わせ、儀礼で使用された大量の儀礼文献及び文書の録文作成、校訂作業、解読分析、現代語訳を進め、儀礼の実践と儀礼文献の対応を明確にし、宗教儀礼知識の総体を立体的に把握する研究を行なった。ヤオ族の関連儀礼文献を収蔵する国内外の諸機関で文献調査を行ない比較分析の材料を収集し、国際的な研究ネットワーク形成を図った。『瑶族文化研究所通訊』等を刊行し、資料はヤオ族文化研究所ウェブサイトにて公開を図った。

研究成果の概要（英文）：Du Jie rituals, which was conducted by Yao people in Langshan county, Hunan province, in November 2008, has been systematically analyzed. A great volume of ritual texts and manuscripts used therein have been typed out, corrected, interpreted and translated into modern Japanese. As co-relations between these texts and ritual performances become clear, Yao knowledge of religious rituals can be seen in depth. Search for comparative materials kept in foreign libraries as well as those in Japan has been continued, in which an international network of Yao specialists has well established. Part of the research results were published as “Bulletin of Institute for the Study of Iu Mien Culture” and posted to the Institute’s webpage.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2009 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2010 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2011 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2012 年度	0	0	0
総計	11,500,000	3,450,000	14,950,000

研究分野：民俗学・祭祀芸能

科研費の分科・細目：人文学 B・宗教学

キーワード：宗教学、民俗学、民族学、文化人類学、祭祀儀礼、儀礼文献、伝統文書、道教

1. 研究開始当初の背景

本研究では湖南省藍山県に居住する過山系ヤオ族の伝承する宗教儀礼の中で最上級の通過儀礼である度戒儀礼の総合的な調査を行なう。度戒儀礼は文化大革命等の原因で久しく行なわれていなかったが、藍山県政府によって無形文化遺産の対象とされ、施主も

見つかったため、実施が許可され 2008 年冬に実現の運びとなった。今回のような 10 日間にわたり 20 名以上の宗教者が参加する大規模な度戒儀礼は今後の実施は不可能となると考えられ、実地調査の貴重な機会であった。儀礼全体の内容の詳細な記録はもとより儀礼の進行に必要な不可欠な儀礼文献が儀礼

的实践の中で、どの段階で、如何なる目的をもって使用されるか、記録することはこれまで十分に試みられてこなかった。ヤオ族の祭祀儀礼を真に理解するには身体動作、文献の読誦、法具、祭壇等複雑な儀礼内容を記録するばかりでなく、儀礼を実施する宗教者の社会的役割や、道教等との接触による歴史的な変遷等多方面への展開が必要と言えるが、このような総合的な調査研究は、歴史学、宗教学、民俗学、人類学の広範囲な分野からのアプローチ無くしては実現しない。この点全てを満足するような研究は未だなされていない状況であった。

2. 研究の目的

ヤオ族の儀礼はある意図を持って動作と読誦によって構成され、礼拝する、足のステップを踏む、手の指を組む、符を書く、水を撒く、回転する、供物を捧げるといった動作と、儀礼文献の本文や、常用する曲詞や演劇的科白、その都度神に向かってしたためられる儀礼文書、秘訣の呪文の読誦が同時並行で行なわれる。儀礼動作と文献読誦の両面を空間と時間にわたってしっかりした記録に留めることによって、今まで充分に行なわれてこなかったヤオ族の儀礼の全容を明らかにすることを目的とした。

その上で道教儀礼やその他の地域の民間祭祀儀礼等との比較を試みた。また文献学的儀礼研究との接合も行ない、儀礼史の上に体系的に位置づけを目指した。歴史的な儀礼文献との比較を行なうことで、現代に到る道教儀礼の歴史的変遷をヤオ族の儀礼に通観することを目的とした。またヤオ族の儀礼にあって道教儀礼にない内容からヤオ族の儀礼の独自の面を明らかにすると考えた。

ヤオ族の中小規模の儀礼及タイ北部のヤオ族の儀礼の調査を実施し、儀礼内容及儀礼文献の異同を確認し、ヤオ族の儀礼のバリエーションを整理するとともに、歴史的な位相のもとに置く為の検討を行ない、系譜関係も明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

度戒儀礼調査及び補足調査を行ない、宗教者や施主への聞き取りを実施すると共に、調査の記録内容を儀礼実施者の宗教者に改めて校閲して貰い、総合的かつ緻密な調査研究を目指した。今回収集した文献資料及収録した映像画像資料は全てデータ化し、儀礼文献の現代語訳を付し、また儀礼内容の説明を付し、インターネット上で公開することを目指した。今回のプロジェクトは神奈川大学に設置するヤオ族文化研究所を拠点として実施するが、国際的なヤオ族儀礼文献の研究センターとして機能させる基礎を築いた。

その上で、バイエルン州立図書館及南山大

学に収蔵されているヤオ族の儀礼文献を閲覧し、今回の度戒儀礼等の調査で収録した資料との対校を行なうとともに国際的な研究交流を進めた。また吉野晃及廣田律子がすでに得ているヤオ族の儀礼文献との比較も行った。他の種々な資料と対照することで更に深い理解と新たな発見を可能とした。

異なる研究領域の分担者が共同で研究を行なうことで、民俗学、文化人類学のフィールドワークの手法と宗教学・歴史学の歴史文献分析法のコラボレーションによってより充実した研究成果を追求した。ここにヤオ族儀礼の総合的な調査を初めて実現した。分担者各メンバーがこれまでに四川、貴州、江西、湖南、広西、台湾で調査収集した資料との比較検討作業を進めることで、明・清代に江南中国に広く流行していたと考えられる、道教の影響下に形成された祭祀儀礼の形式の復原を試みた。

4. 研究成果

湖南省藍山県ヤオ族が2008年11月に実施した度戒儀礼の儀礼内容の分析及び文書の録文作成、校訂作業、解読分析、現代語訳を進め、儀礼の実践と儀礼文献の対応を明確にし、宗教儀礼知識の総体に関して立体的研究を行なった。さらに儀礼の祭司及び受礼者に対し聞き取り補足調査(2009年8月・2010年5月・8月・11月に実施)を行ない儀礼内容と使用文献及び受礼者の家族親族についての確認作業を行ない儀礼の全容の解明に努めた。2011年11月には藍山県の盤家で実施された還家願儀礼調査を行ない、家を単位とする中規模の儀礼内容、使用文献を把握し、儀礼間の移動を確認するために必要な資料を得た。また、ヤオ族の関連儀礼文献を収蔵するバイエルン州立図書館(250件)、オックスフォード大学ボードレアン図書館(100件)及び南山大学人類学博物館(130件)で文献調査を行ない比較分析の材料を収集し、国際的なネットワーク形成を図った。2009年8月中国長沙において「第1回湖南瑶族伝統文化研討会」を開催し、地元研究者との研究交流及び地元への還元を図った。2010年11月に神奈川大学においてバイエルン州立図書館員、現地中国湖南省の研究者及び伝承者(祭司)を招聘し「ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム」を実施し、歴史学、文化人類学、地理学、言語学等多分野の研究者間での活発な研究交流を図った。さらに2011年1月に東京大学で「『ラオス北部のランテンヤオ族民間伝統文書の保存・集成・解題』プロジェクト・神奈川大学ヤオ族文化研究所共同研究会」を開催しラオスのヤオ族研究者との研究交流をさらに深めた。

なおヤオ族文化研究所は年に6回程度研究

会を開催し、『ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム予稿集』及び『瑶族文化研究所通説』1～3号を刊行し、さらに神奈川県歴史調査報告等12集「中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告I」でも研究成果の公表に努めた。この際映像資料に字幕を付すことで儀礼の実践と読誦されるテキスト及び呪文を明確化する取り組みをした。儀礼文献・文書及び画像資料は、ヤオ族文化研究所ウェブサイトで公開している。

さらに国際学会「地方道教儀礼実地調査比較研究」(香港大学)「道教の帰依と伝度に関する国際会議」(フンボルト大学)「アメリカ人文基金セミナー 道教の文献と歴史」(コロラド大学)にも招聘を受けるなど研究交流の成果を挙げた。研究成果の一部を以下にまとめ、同時に今後の発展の方向にも触れたい。

(1) 度戒儀礼の全過程の復元を行ない特に儀礼の中で補掛三灯の部分については、取り上げ唱えられる呪文、読誦されるテキストの記述及び儀礼実践の詳細な内容を把握した上映映像資料と結合させ、DVDを制作した。本研究ではこの作業を度戒儀礼全過程で行なうことを目指している。さらに日常の儀礼の内容と照らし合わせ、構成要素の異同を明確にしヤオ族の儀礼の総体の中で位置付けを行ないたい。(廣田律子『神奈川県歴史調査報告第12集 中国湖南省藍山県ヤオ族儀礼文献に関する報告I』2011年)

(2) 儀礼で使用されるテキスト内容から賞光書・伝度書・請聖書・意者書・歌堂書・超度書・曆書のジャンルに分類できることが判明し、藍山県のヤオの伝承する文献(経典・文書)の実態を明らかにすることで他の地域のヤオ族の文献資料との比較対照が可能になった。さらに他地域との比較を進め調査地の文献資料の個性と普遍性を明らかにしたい。(浅野春二「バイエルン州立図書館所蔵『招魂書』に見るヤオ族の招魂儀礼について」、松本浩一「度戒儀礼に見える神々：呉越地方・台湾の民間宗教者の儀礼と比較して」『瑶族文化研究所通説』3号 pp.24～34 2011年)

(3) 度戒儀礼の文字資料について、文書の凡例の収められたテキストとも関連させつつ文書の解読を行ない、文書の作成法式についても実際的な理解に到達できた。文書の解明に向けて、度戒における資格授与とかかわる文書(陰陽抛)を取り上げ、できる限り多くの異本と対校して本文の復元を試み、訓読の試案を提起した。これによりそのほかの関連する文字資料理解の前提となる、資料状況の特性に即した研究方法を確立できたと考えている。今後はその方法によって大量の

未読資料を検討していく段階に入ったと考えている。(丸山宏「湖南省藍山縣勉系瑶族宗教儀式文字資料的研究價值—以度戒儀式文書為中心之探討—」『地方道教儀式実地調査比較研究』2011年発行予定、丸山宏「中国湖南省藍山県ヤオ族の度戒儀礼文書に関する若干の考察—男人用平度陰陽抛を中心に—」堀池信夫(編)『知のユーラシア』pp.400～427 2011年)

(4) 文献(テキスト)に収められた内容分析を進め、他の地域(広西・広東)欧米図書館の所蔵文献等複数のテキストからヤオ族の盤王神話について指摘されている内容(竹村卓二『ヤオ族の歴史と文化』弘文堂1981年 293～299頁に盤古神話と渡海神話の重層性について論じている)に加えて、盤王の生業神としての伝承が広範囲に普遍的に存在することが確かめられた。今後さらに文献収集を行ない重層する神話の構造を解明したい。(廣田律子『中国民間祭祀芸能の研究』風響社 2011年)

(5) ヤオ族の家族において招婿婚と養女が多く、儀礼文献で示される父系イデオロギーと儀礼を実践する伝承者の実態の乖離が明らかとなった。原因を究明するためさらに人類学的なフィールド調査を進める必要がある。(泉水英計「家屋と家先単からみるヤオの家族史」『瑶族文化研究所通説』3号 pp.46～60 2011年)

(6) 儀礼要素をタイのヤオ族社会と比較分析する作業を行ない、中国・ラオス・タイのヤオ族の〈掛燈〉儀礼(度戒儀礼の補掛三灯部分)を比較してその移動を分析し、地域的変差を明らかにした。考察をヤオの儀礼全体に広げたい。(吉野晃「〈掛三台燈〉の構造と変差：タイ、ラオス、中国湖南省藍山県のユーミンにおける〈掛燈〉の比較研究」『瑶族文化研究所通説』3号 pp.35～40 2011年)

本プロジェクトにより儀礼文献・文書を中心とする複雑にして大量な宗教儀礼知識がデータベース化及び電子媒体や出版等の形で公開されることで、地元の文化財の重要性への理解を進め、文化財保護に寄与することに繋がったと考える。

またヤオ族は中国ばかりでなくタイをはじめとする東南アジアやアメリカ等世界各地に分散して居住しており、この儀礼文献・文書の公開を通じてヤオ族自身自民族の文化を再発見し、再評価することに繋がった。すでに本研究所の活動に呼応して、昨年新たに省レベルで湖南省瑶族文化研究センター、県レベルで藍山県瑶族文化研究学会が設立されたほか、相同の儀礼知識を伝承してきたものの継承の危機を迎えているタイのヤオ

族が度戒儀礼の資料の提供を望んでおり、ヤオ族の儀礼伝承に更なる展開が予想される。このような継承の危機にある儀礼と儀礼文献・文書を収集記録保存することは、ヤオ族の社会に留まらず人類文化の保存継承の観点からもその意義は大きい。

ヤオ族の儀礼に関連する文献は、日本では南山大学またドイツのバイエルン州立図書館、イギリスのオックスフォード大学ボードリアン図書館、オランダ国立民族学博物館、ドイツのハイデルベルク大学中国学研究所、オランダのライデン大学、ワシントンの米国議会図書館をはじめとする各国の研究施設にバラバラに保管されており、諸機関との連携を図り、データを公開することで国際的な研究者間での活用が可能になり学術的な研究交流が促進される。すでに南山大学、バイエルン州立大学図書館、ボードリアン図書館及び麗水学院畲族文化研究所間で研究交流をはじめている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 62 件)

- ① 廣田律子、「盤王大歌」—旅する祖先—、『万葉古代学研究所年報』、査読なし、9 巻、2011 年、167-216 頁
- ② 吉野晃、「ユーミエンの儀礼の研究における課題：儀礼の意味と伝承、不易と変差」、『瑶族文化研究所通説』、査読なし、2 号、2010 年、17-18 頁
- ③ 丸山宏、「道壇と神画」、『アジア遊学』、査読なし、133 巻、2010 年、132-146 頁
- ④ 浅野春二、「バイエルン州立図書館所蔵『招魂書』に見るヤオ族の招魂儀礼について」、『瑶族文化研究所通説』、査読なし、3 号、2011 年、103-137 頁
- ⑤ 森由利亜、「榜文の翻刻と現代和訳の一例—約束榜—」、『瑶族文化研究所通説』、査読なし、2 号、2010 年、26-28 頁

[学会発表] (計 43 件)

- ① 廣田律子、湖南省藍山縣勉系瑶族道教儀式調査研究—以表演性項目为中心之考察—、「地方道教儀式實地調査比較研究」国際学術研討會、2011 年 4 月 21 日、中国香港
- ② 丸山宏、湖南省藍山縣勉系瑶族宗教儀式文字資料的研究價值—以度戒儀式文書为中心之探討—、「地方道教儀式實地調査比較研究」国際学術研討會、2011 年 4 月 21 日、中国香港
- ③ 吉野晃、〈掛燈〉の構造と変差：タイ北部・ラオスと中国湖南省藍山縣のユーミエンにおける〈掛三台燈〉儀礼の構造と変差に関する比較、「ラオス北部のランテンヤオ

族民間伝統文書の保存・集成・解題」プロジェクト・神奈川大学ヤオ族文化研究所共同研究会、2011 年 1 月 10 日、東京都

- ④ 張勁松、中国藍山縣過山系ヤオ族の度戒儀礼における信仰的意義及び機能、神奈川大学ヤオ族文化研究所『ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム』、2010 年 11 月 23 日、神奈川県横浜市
- ⑤ 松本浩一、度戒儀礼に見える神々『ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム』、2010 年 11 月 23 日、神奈川県横浜市

[図書] (計 9 件)

- ① 廣田律子、風響社、『中国民間祭祀芸能の研究』、2011 年、総 738 頁
- ② 吉野晃、風響社、「タイ北部におけるユーミエン(ヤオ)の儀礼体系と文化復興運動」、鈴木正崇(編著)『東アジアにおける宗教文化の再構築』、2011 年、273-299 頁
- ③ 丸山宏、明治書院、「中国湖南省藍山縣ヤオ族の度戒儀礼文書に関する若干の考察—男人用平度陰陽拋を中心に—」堀池信夫(編)『知のユーラシア』、2011 年、400-427 頁
- ④ 廣田律子、張勁松、松本浩一、吉野晃、丸山宏、浅野春二、泉水英計、Lucia Obi、馮榮軍、趙金仔(趙金付)、三村宜敬、ヤオ族文化研究所、『瑶族文化研究所通説』3 号、2011 年、総 137 頁
- ⑤ 廣田律子、神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科、『神奈川大学歴史調査報告第 12 集中国湖南省藍山縣ヤオ族儀礼文献に関する報告』I、2011 年、総 142 頁

[その他]

ホームページ等

<http://www.yaoken.org/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣田 律子 (HIROTA RITSUKO)
神奈川大学・経営学部・教授
研究者番号：70260990

(2) 研究分担者

吉野 晃 (YOSHINO AKIRA)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：60230786

丸山 宏 (MARUYAMA HIROSHI)
筑波大学・人文社会科学部・教授
研究者番号：00229626

松本 浩一 (MATSUMOTO KOICHI)
筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授

研究者番号：00165888

森 由利亜 (MORI YURIA)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：30247259

浅野 春二 (ASANO HARUJI)
國學院大学・文学部・教授
研究者番号：30289714

(3) 連携研究者

佐野 賢治 (SANO KENJI)
神奈川大学・経済学部・教授
研究者番号：90131127

泉水 英計 (SENSUI HIDEKAZU)
神奈川大学・経営学部・准教授
研究者番号：20409973

高城 玲 (TAKAGI RYO)
神奈川大学・経営学部・准教授
研究者番号：60414041

蔡 文高 (CAI WENGAO)
神奈川大学・経営学部・非常勤講師
研究者番号：40412382